

量子科学技術研究開発機構（放射線医学総合研究所）研修の実施（紹介）

実施日：令和4年1月6日（木）

理数科2年次生と理数科3年次生を対象（参加生徒：理数科2年次生4人、理数科3年次生1人）に放射線の専門家の話を、じっくりと近い距離で聞き質問をすることで放射線についての正しい知識を得ることができた。また、放射線に被ばくした場合、どのように対処・処置を受けるのか、どのような施設で重粒子線などが活用されているのかを実習や施設見学を通してより理解を深めることができた。

写真1は実習の様子である。生徒は実習の際にも専門家の先生に色々なことを質問しながら実習を行っていた。写真2は生徒が見学した以前まで稼働していた治療室の様子である。実際の治療台や重粒子線を照射する装置を見学しながら専門家(研究者)の生の説明が聞けて生徒は興味津々であった。普段の授業の時は大人しくしている生徒も積極的に質問していた。

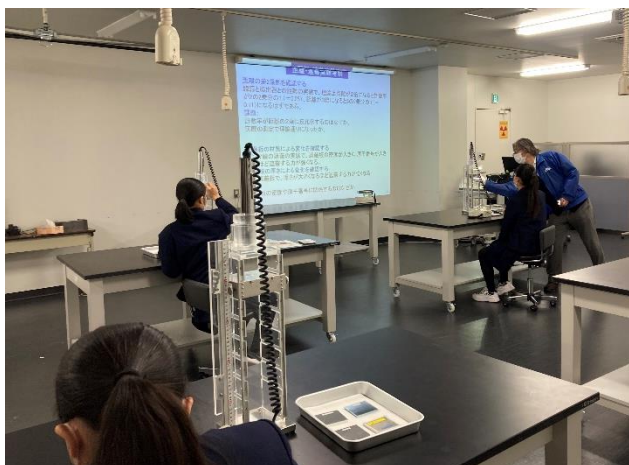


写真1 実習の様子



写真2 旧治療室

写真3、4は実際の被ばく患者に対する処置室の様子である。ここでは実際に患者に対してどのような処置を行うのか。また、被ばくをした際の対処について学んだ。受講した生徒たちは放射線が目に見えないからこそ正しい対処が必要だと実感していた。



写真3、4 放射線治療室の様子